

会 議 録

1 会議名

平成29年度第3回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

1) 協 議（公開）

(1) 平成29年度上越市地域活動支援事業（安塚区）の審査について

ア. 全体審査（採択の可否、補助金の決定）

(2) 平成29年度上越市地域活動支援事業（安塚区）追加募集について

(3) 安塚区地域協議会としての審議内容について

2) 報 告（公開）

なし

3) その他（公開）

3 開催日時

平成29年5月18日（火）午後7時から午後8時55分まで

4 開催場所

安塚区総合事務所3階301会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委 員：池田嘉久、石田ひとみ、數井憲一、國保信夫、小松光代、中島勝義

長谷川直樹、秦克博、松苗正二、松野等、山岸重正

・浦川原区総合事務所：山崎産業グループ長、小林建設グループ長

・事務局：安塚区総合事務所 山崎所長、市川次長、横尾市民生活・福祉グループ長

（併教育・文化グループ長）、國保班長、高島主事

（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【市川次長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 会議録の確認：数井憲一会長

【数井憲一会長】

- ・ 挨拶

協議事項(1)平成29年度上越市地域活動支援事業（安塚区）の全体審査について、説明を事務局に求める。

【高島主事】

今回、安塚区の地域活動支援事業の提案は7団体、補助希望額の合計は375万円、安塚区の配分額に対して145万円少ない状態である。

一昨日16日（日）の第2回安塚区地域協議会においてプレゼンテーションを行い、委員の皆さんから計7団体の提案について採点していただいた。採点結果については、本日、追加資料として配布した資料N○1「採点結果一覧」のとおりである。なお、16日の会議に欠席した中島委員と中村委員からも昨日採点表を提出していただいた。

それでは、資料N○1「採点結果一覧」を御覧いただきたい。まず、基本審査は、提案事業が「地域活動支援事業の目的と合致しているか」を確認するものであるが、7団体全ての提案について12名の委員全員が適合するとしている。次に、安塚区の採択基本方針との適合性についても、7団体全ての提案について12名の委員全員が適合としている。続いて、共通審査は、①公益性、②必要性、③実現性、④参加性、⑤発展性の視点により5点満点で採点を行っていただき、その平均点が記載されている。安塚区では共通審査基準の平均点が15点に満たない場合は不採択とするが、今回は全て平均点が15点を上回る結果であった。また、特記事項等欄には、記載のあった意見等を転記してあるので、協議の参考としていただきたい。全ての提案について、平均点が15点を上回る結果だったが、これから今一度、採択基本方針や共通審査項目と照らし合わせ、1事業ごとに採択の可否、補助金額、付帯意見の有無について協議をお願いする。

協議に移る前に、事務局から協議の際の留意点について補足させていただく。

提案N o 1 安塚自然友の会の提案について、講師謝金を予算に計上しており、一昨日のプレゼンテーションで、団体構成員が講師を務めるとあった。団体構成員に対する謝金は、対象経費とならないので、補助額から減額する必要がある。また、今回、共通審査④参加性（提案事業の実施に当たり、提案者に限らず多くの住民等の参加が期待できるものか）が2点と付けられたものが多く散見された。特に提案N o 2 安塚区老人クラブ連合会及び提案N o 6 安塚スキークラブの提案については、クラブ会員のみの参加が予想される。本来、地域活動支援事業は、会員のための活動を支援するのではなく、地域のために活動することに対して支援するものであり、例えば、購入物品を活用して会員以外の方も参加できる大会等を開催することなどの条件を付して採択することについても検討していただきたい。提案N o 8 の直峰町内会の提案については、一昨日のプレゼンテーションの際に観桜会は昼のみであり、夜桜の魅力をアップさせる事業の趣旨とは合わないため、夜も集客の取組をすべきではないかという意見があった。こちらの提案についても、ただライトアップをするだけでなく、地域活動につながることを実施していただくことを条件に付けることも検討していただきたい。

【数井憲一会長】

何か質問等あるか。

（「なし」の声あり）

それでは、資料N o 1 「採点結果一覧」の1番から順に検討をお願いしたい。安塚自然友の会、ウォーキングと郷土の自然・史跡探訪推進事業、事業費21万3千円に対して、申請額が21万円である。平均点の合計が18.3点であり、特記事項も踏まえていただきたい。採択の可否について、いかがか。

（「採択でよい」との声あり）

採択でよいか。

（「はい」の声あり）

補助金額については、事務局から講師謝金分は補助対象経費にならないと説明があった。講師謝金は1万5千円（5千円×3回）であり、安塚区においては、1万円単位での交付となることから、補助額は2万円減額の19万円としてよいか。

（「はい」との声あり）

何か意見はあるか。

(「なし」との声あり)

意見は、付けないこととしてよいか

(「はい」の声あり)

続いて、安塚区老人クラブ連合会の安塚区高齢者いきいき活動推進事業について協議する。平均点の合計が18.4点で、事業費16万1千円に対して、申請額が16万円である。採択の可否について、いかがか。

(「採択でよい」との声あり)

採択でよいか。

(「はい」の声あり)

補助金額については、いかがか。

(「補助希望金額全額でよい」との声あり)

【數井憲一会長】

何か意見はあるか。

【山崎所長】

付帯意見についての協議に入る前に、先ほども説明させていただいたが、共通審査④の参加性について、事務局の見解を協議の参考に説明したい。現在、老人クラブが解散するなどして老人クラブに加入できない方などがいる。できれば、より多くの高齢者の方にこの事業を通して家にこもることなく元気に活動していただきたいと考えているが、今のままだと老人クラブ会員のみの参加が予想される。結果として、老人クラブ会員のみの参加となるかもしれないが、クラブ会員以外の方にも参加募集をし、安塚区の高齢者が広く参加できるようにすることなどを条件にすることについても検討していただきたい。これはあくまでも事務局としての見解なので、付帯意見については、委員の皆さんの判断にお任せする。

【數井憲一会長】

事務局から参加性について説明があったが、何か意見はあるか。

【松苗正二委員】

どの提案事業も提案団体員のみでの参加となる事業が多く、参加性を考慮するとほとんどの団体の評価が低くなるを得ない。参加性を考慮するのであれば、申請の段階で、提案団体だけでなく、広く安塚区の住民が参加できる事業であることを明記していただ

く必要があるのではないかと。

【數井憲一会長】

確かに地域活動支援事業の性質上、提案書にそういった文言を明記していただくのは必要であるように感じる。

【中島勝義委員】

安塚区の住民がこぞって参加する事業というのは難しいのではないかと。実際、これまでも、ほとんどが提案団体単位の活動であった。それでも、スキー靴のような個人で支出すべきものについては、減額してきた経緯がある。実際には、提案団体員のみでの活動だとしても、安塚区全体に効果があるとみなすしかないのではないかと。

【數井憲一会長】

地域活動支援事業の性質上、提案団体に限らず多くの住民等の参加が期待できるものが望ましい。今後は、申請の段階でそういった文言を明記していただくようにするかどうか。

【中島勝義委員】

申請の段階で広く安塚区の住民が参加できる事業であることを明記していただくとしても、厳密にしすぎると、どの団体も提案しなくなる可能性がある。ある程度、柔軟性を持たせる必要がある。

【國保信夫委員】

私は、プレゼンテーション時に安塚区老人クラブ連合会の会員数を尋ねたが、安塚区においては、老人クラブ連合会が最も多くの会員がある団体である。安塚区は青年会も婦人会もなく、65歳以上の層が厚いだけに、老人クラブ連合会の活動は重要であると考えます。安塚区の人口における老人クラブ会員の比率は高いため、特に会員以外の方に参加を募る必要はないと考えます。事務局の言うように安塚区全体に参加を募らなければならないというのはおかしいのではないかと。

【數井憲一会長】

今回の事業は、老人クラブ会員のみでの活動であるが、プレゼンテーション時に輪投げは高齢者に人気があり、輪投げを通して、今後会員を増やしたいと言っていたので、活動の広がりには期待したい。

事務局何か意見はあるか。

【山崎所長】

安塚区全体に参加を募らなければならないということは申し上げていない。安塚自然友の会や、やすづかスポーツクラブの提案は、松之山街道についての学習会やスポーツサロンの開設といった、自分たちの得意分野を活かして広く参加者を募るもので、地域活動としては素晴らしいものとする。対して、提案団体のみの活動である場合は、活動に広がりがなく、地域活動支援事業の趣旨から見れば、際どいラインだと考えている。安塚区全体に参加を募らなくても、興味のある方や65歳以上の方など対象を設けて募るだけでも広がりがあると考えている。

また、地域活動ということで、地域とはどこからどこまでを指すのかという議論があるかと思うが、事務局では、狭くても町内会単位であれば地域だと考えているので、協議の参考にしていただきたい。

【數井憲一会長】

それでは、付帯意見はどうするか。

【國保信夫委員】

なしでよいのではないか。

【數井憲一会長】

意見は、付けないこととしてよいか。

(「はい」の声あり)

意見は特に付けないが、補助金申請等の際に事務局から口頭で、参加者をたくさん募るため、会員以外にも周知し、大会を実施する方法もあることを伝えていただけたらと思う。

続いて、安塚町内会の自主防災資材の整備推進事業について協議する。平均点の合計が18.9点で、事業費61万円に対して、申請額が59万円である。採択の可否について、いかがか。

(「採択でよい」との声あり)

採択でよいか。

(「はい」の声あり)

補助金額については、いかがか。

(「補助希望金額全額でよい」との声あり)

【數井憲一会長】

付帯意見について、何かあるか。

【中島勝義委員】

前年度に引き続き、今年も防災資材整備の提案があったが、今後、防災資材の提案については、採択するという方向性となるのか。

【山岸重正副会長】

そもそも、防災資材の整備については、他に市の制度があるのではなかったか。

【長谷川直樹委員】

上越市自主防災組織等育成事業補助金という制度があるが、限度額が30万円である。

【中島勝義委員】

地域活動支援事業（安塚区）だと、おおむね100万円まで補助されるので、地域活動支援事業に提案してきているのではないか。

【山崎所長】

安塚区の採択基本方針に⑨安全安心のまちづくりに資する事業がある。ただ、資材を整備するだけでは地域活動にならないが、提案書には、整備した防災資材を用いて、防災訓練を実施するとあり、住民による活動が伴っているため、事務局では地域活動になると捉えている。

【數井憲一会長】

意見はどうするか。

（「なし」の声あり）

意見は、付けないこととしてよいか

（「はい」の声あり）

続いて、行野自治会の横尾義智記念公園管理事業について協議する。平均点の合計が16.7点で、事業費96万2千円に対して、申請額が95万円である。採択の可否について、いかがか。

【山崎所長】

協議の前に、横尾義智記念公園管理事業について補足させていただきたい。資料No.1「採点結果一覧」の特記事項欄に高齢化が進んでいる地域であり、参加者増が期待できないとあるが、行野自治会では、毎年7月頃に地域の方々とろうあ者との交流会を開

催している。横尾義智記念館は、いわば、ろうあ者にとっての聖地であり、交流会には東京都や富山県など全国各地から、ろうあ者が参加している。昨年、富山県からの参加者については、団体に交流会に参加し、安塚区細野の六夜山荘に宿泊していったという。こういった事情を加味して検討していただければと思う。

【數井憲一会長】

採択についてはいかがか。

（「採択でよい」との声あり）

採択でよいか。

（「はい」の声あり）

補助金額については、いかがか。

（「補助希望金額全額でよい」との声あり）

意見は、付けないこととしてよいか

（「はい」の声あり）

続いて、安塚スキークラブの安塚 jr アルペンスキークラブ育成事業について協議する。平均点の合計が16.3点で、事業費58万6千円に対して、申請額が58万円である。採択の可否について、いかがか。

【山岸重正副会長】

ワックスが計上されているが、スキー靴やスキーウェアと同様に個人で支出すべきものではないか。競技を行う上でワックスは必要な物であるし、子供たちの活動を応援したい気持ちもあるが、地域活動支援事業の趣旨からいえば、子供たちを集めて行うスキーイベント等に補助金を活用していただきたい。

【長谷川直樹委員】

以前、ワックスについては議論しなかったか。

【小松光代委員】

以前、安塚ジュニアクロスカントリースキークラブの提案にあったスキー靴については、個人で購入すべきものとして補助金を減額したが、ワックスについては、安塚スキークラブ、安塚ジュニアクロスカントリースキークラブともに減額していない。

確かにスキークラブの提案事業の恩恵を受けるのはスキークラブ会員のみであるが、スキークラブの活動は地域に密着した活動である。活動は安塚区のシンボルであるキュ

ーピットバレイスキー場で行われている。キューピットバレイスキー場のためというわけではないが、今年には妙高市にロッテアライリゾートがオープンすることもあり、キューピットバレイスキー場で行う活動を支援したい。そして、こういったスキークラブが行う事業等をきっかけにキューピットバレイスキー場で行われる活動が広がっていけばと考える。また、これまでの支援の甲斐もあり、スキーの大会で優勝者も出ていることから、支援の力は大きいように感じる。スキークラブ会員の子供たちも支援を受けられることを当たり前と思わず、地域に支えられていることを認識しているということなので、支援を通して、さらに自分の技術に磨きをかけてほしいと考える。

【松苗正二委員】

天候、雪質等の状況によって使用するワックスは常に変えていかなければならないため、選手が個人で用意するのは、資金的に難しいのではないかと思う。地域活動支援事業の趣旨とは少し違うかもしれないが、地域の子供たちを地域で育成するという観点で支援したいと考える。そして、小松委員の言うように、こういった活動をきっかけに若い人にどんどんキューピットバレイスキー場を活用していただきたい。

【數井憲一会長】

採択についてはいかがか。

(「採択でよい」との声あり)

採択でよいか。

(「はい」の声あり)

補助金額については、いかがか。

(「補助希望金額全額でよい」との声あり)

意見は、付けないこととしてよいか

(「はい」の声あり)

続いて、やすづかスポーツクラブの健康・仲間づくりのスポーツサロン事業について協議する。平均点の合計が17.4点で、事業費31万1千円に対して、申請額が30万円である。採択の可否について、いかがか。

(「採択でよい」との声あり)

採択でよいか。

(「はい」の声あり)

補助金額については、いかがか。

(「補助希望金額全額でよい」との声あり)

意見はなにかあるか。

(「なし」の声あり)

意見は、付けないこととしてよいか

(「はい」の声あり)

【數井憲一会長】

最後に、直峰町内会の安塚リバーサイドロード魅力アップ事業について協議する。平均点の合計が15.9点で、事業費96万円に対して、申請額が96万円である。採択の可否について、いかがか。

(「採択でよい」との声あり)

採択でよいか。

(「はい」の声あり)

補助金額については、いかがか。

【山岸重正副会長】

事業費と申請額が同一であり、自分たちの活動であるにもかかわらず、団体負担金が計上されていない。補助額を減額される場合を想定しておらず、満額補助してもらったように感じる。

【國保信夫委員】

直峰町内会が実施している観桜会のおかげで、安塚のリバーサイドロードも脚光を浴びるようになったと感じるので、満額で補助したらどうか。

【松野等委員】

前年度も同一事業の提案があり、LED投光器を整備したが、提案書にもあるとおりに想像していたよりもきれいに桜を照らすことができなかつた経緯がある。また、提案書を見る限り、LED投光器の活用方法など今後の見通しが不明確であると思う。

【小松光代委員】

前年度の採択結果はどうであったか。

【數井憲一会長】

前年度は、使用期間が1週間程度と想定され、使用期間が限定されること、また、初

めての試みであることから、申請したLED投光器3台分のうち1台分を減額した。

直峰町内会のプレゼンテーション時に、去年は観覧者がいなかったが、今年は夜に車が数台停まっていたとあり、徐々に観覧者が増えているように感じた。

【山岸重正副会長】

前年度に減額されたからといって、毎年申請することも考えられるので、事業計画にもう少し具体性がほしい。また、リバーサイドロードは松崎から和田まで続いており、そのうち他の地区からもLED投光器を整備したいとの提案があることも考えられるため、全体的に考える必要がある。

【長谷川直樹委員】

プレゼンテーション時、直峰町内会は、実際にLED投光器を数台試し、前年度購入した製品より、きれいに桜をライトアップできるものを購入する予定だと説明していた。しかし、前年度、地域活動支援事業を活用し、LED投光器を整備して行った桜のライトアップが期待していたものよりも効果が薄かったということから、減額してもよいのではないか。

【小松光代委員】

そもそも、LED投光器16台を申請しているが、台数の根拠はなにか。

【長谷川直樹委員】

プレゼンテーション時に250mの区間をライトアップしたいと説明していたため、250mの区間をライトアップするために必要な台数なのではないか。

【松苗正二委員】

今回購入希望のLED投光器は、前年度購入した製品より値段が安く、照らす力が弱いため、前年度よりも台数が必要なのではないか。

【池田嘉久委員】

250mで16台ということなので、約15mに1台だが、使用期間が1～2日であるのは、もったいなく感じる。

【數井憲一会長】

前年度購入したLED投光器は、灯の回廊の際にキューピットバレイで使用されていたという話である。

現在、補助額を減額するという意見が出ているが、減額することとするか。

【長谷川直樹委員】

前年度に補助額を減額している経緯があることから、今回も減額するべきでないか。

【數井憲一会長】

減額するにも理由が必要であるが、何かあるか。

【長谷川直樹委員】

観桜会の開催は本当に大変であろうし、長年続けている直峰町内会に敬意を表したいが、LED投光器は16台も必要ないということで減額してはどうか。

そもそも、提案書に、購入したLED投光器は高価でデリケートな品物であるため、管理はNPO雪のふるさと安塚に任せるとあるが、いかがなものか。

【數井憲一会長】

確かに自分たちの活動のための備品の管理を他の団体に一任するというのは、おかしな話であるが、その点は、プレゼンテーション時に確認するべきであった。

【松苗正二委員】

減額についてだが、前年度購入したLED投光器2台があるのだから、その分、今回提案分の16台から2台分を減額すればよいのではないか。

【松野等委員】

委員の共通審査の点数をみると、平均点の合計が15.9点であり、今回、他の提案と比較すると点数の低さが際立つ。点数を反映するという意味でも減額すべきだ。

【數井憲一会長】

それでは、どの程度の補助が妥当であると考えてるか。

【松野等委員】

補助額はLED投光器10台分位でよいのではないか。

【數井憲一会長】

ほかに意見はあるか。

【池田嘉久委員】

地域活動支援事業に応募し、観桜会のようなイベントを行う場合は、準備から実績報告までいろいろと大変である。地域活動支援事業に応募することで、また観桜会についての情報が広まり、集客が図られるであろうし、地元の人がやりたいのであれば、全額補助してもよいと考える。

【秦克博委員】

今年ライトアップしてある桜を見たが、LED投光器の設置の仕方等、残念な部分があった。しかし、今回減額して中途半端に実施するよりは、できるだけ多くLED投光器を整備できるよう補助し、精一杯実施していただけたらと思う。ただ、LED投光器の設置の仕方等については、桜をきれいに見せられるよう工夫してほしい。

【石田ひとみ委員】

申請している台数は16台だが、提案書のイメージ図を見ると、14台である。採択の可否について提案書は重要なものであるから、桜の照らし方等をしっかりと勉強し、提案書やイメージ図を作成していただきたい。補助額としては、16台の根拠がはっきりしていないので、減額してもよいのではないかと。

【松苗正二委員】

前年度購入したLED投光器2台も使用できるのであるから、私も松野委員の言うように補助額は10台分でよいと思う。

【長谷川直樹委員】

私も補助額は10台分でよいと思う。

【數井憲一会長】

現在、全額補助とLED投光器10台分を補助するという2つの案があるので、多数決で決めたい。

(2つの案について、それぞれ挙手)

それでは、多数決により、全額補助ではなく、LED投光器10台分を補助することとする。

【山崎所長】

議論の途中で申し訳ないが、事務処理を行う事務局の立場から、事務局内で協議した事項について、参考に聞いていただきたい。まず、1点目、議論の中でもあったが、備品を購入した後、違う団体に管理を任せるのは問題があるのではないかと事務局でも考えている。2点目に、先ほども説明させていただいたが、プレゼンテーション時に、委員から夜の集客アップの取組をすべきという意見があった。そういった取組は、まさしく地域活動であるため、採択条件にすることなどを検討してみてはどうか。3点目に、委員の皆さんの総意により補助額を減額する場合は、提案団体も納得できる理由を示していた

だきたい。4点目に、安塚リバーサイドロード魅力アップ事業の共通審査の平均点は15点以上ではあるが、事業内容について、まだ不透明な部分があり、議論が進んでいないように感じる。ここで採択とせず、もう一度練り直していただき、追加募集時に再度提出していただくことも検討してみてはどうか。最後、5点目に、先ほど直峰町内会は桜のライトアップについて勉強不足とあったが、プレゼンテーション時に、LED投光器を何台か試して1番きれいに桜をライトアップできる製品を購入すると説明していたことを付け加えさせていただく。

【數井憲一会長】

事務局からの説明について、何か意見はあるか。

【松野等委員】

委員の総意は、先ほど決めたように、LED投光器10台分を補助するということがよいのではないか。

【中島勝義委員】

石田委員の言うようにLED投光器16台の根拠がないように感じる。台数の必要性については、専門の設備屋等に見ていただいたのではなく、自分たちで試した程度だと思ふ。共通審査の平均点が低く、減額する必要はあると思ふが、点数が低かったことを理由にはできない。

【長谷川直樹委員】

前回、LED投光器を整備して桜をライトアップした際は、期待していたものより効果が薄かったことを理由に減額するとういことでよいのではないか。

【數井憲一会長】

ここまでの議論を整理したい。当初、全会一致で採択しているわけだが、事務局から事業内容等に不明確な部分があるため、今回は採択とせず、もう一度検討してもらい、追加募集時に再度提出していただくという案が提示されたが、何か意見はあるか。

【山岸重正副会長】

今回採択せず、追加募集で再度提案していただければよいのではないか。

【松野等委員】

今回、たまたま安塚区の配分額に達しておらず、追加募集があるからといって、再度提案していただくのはいかがなものか。

【長谷川直樹委員】

私も次の年に提案していただくのならまだしも、同一年度で持ち越すのは良くないと考える。

【山岸重正副会長】

そもそも、同一年度で同じ事業を申請することは可能なのか。

【山崎所長】

今回、提案書をお返しして、中身を修正していただき、追加募集時に応募していただくことは可能である。

【數井憲一会長】

修正箇所を指摘し、検討して再度提案していただくわけであるから、満額補助としなければならないのか。

【山崎所長】

提案書をお返しする時は、修正内容について、こちらが具体的に指示するわけではなく、団体に不明確である部分を検討していただく。そして、審査の段階で改めて協議していただくので、満額補助になるとは限らないと考えている。

【數井憲一会長】

事務局から追加募集時に再度提案していただくという案の提示があったが、一度採択した以上、先ほどの協議のとおり、全額補助ではなく、LED投光器10台分を補助することとして協議を進めたいと思うが、それでよいか。

(「はい」の声あり。)

【市川次長】

減額採択する場合、減額した理由も必要だが、金額についても正式な額を知るため、再度見積書を提出していただく必要がある。

【數井憲一会長】

LED投光器10台分は、概算でどれくらいになるか。

【市川次長】

手元にある見積書によると概算で70万円程である。

【數井憲一会長】

それでは、補助額は、再度、見積書を提出していただいた後に正式に決定することと

するが、現段階では、概算で70万円を補助することとし、協議を進める。

減額の理由について、なにか意見はあるか。

【中島勝義委員】

前年度、購入したLED投光器を使用して行った桜のライトアップが予想より効果が薄かったことを理由にしてはどうか。

【松苗正二委員】

先ほど、直峰町内会は、桜をきれいにライトアップするためのLED投光器の台数の計算や設置の仕方等について勉強不足であるという話があったが、見積業者であれば、その場所で効果的に桜をライトアップするための台数等を計算できると思う。しかし、前度も業者から見積書を提出していただいた上でLED投光器を購入し、ライトアップを実施しているにもかかわらず、効果が薄かったことから、精査が足りていないといえる。したがって、今回もまだ必要な台数の精査が足りていないということで、減額してはどうか。

【數井憲一会長】

その理由であれば、直峰町内会と業者とで必要な台数を精査してきたのであれば、満額補助となるのか。

【松苗正二委員】

業者がその場所にその台数が必要と判断したのなら、申請額どおり補助すべきではないか。

【石田ひとみ委員】

現段階では、前年度購入した2台のLED投光器の今後の活用方法について明確ではなく、管理も他の団体に任せていることを理由に減額してはどうか。今後、LED投光器の活用方法と管理方法については、直峰町内会に考えていただく必要がある。

【小松光代委員】

確かにLED投光器の今後の使い方等が不明確である。加えて、直峰町内会で数台のLED投光器を試したとあるが、LED投光器は高額のものであるため、今回も期待していたよりも効果が薄かったとなつては困る。

【數井憲一会長】

それでは、前年度の実績を踏まえ、申請されたLED投光器16台分ではなく、設置

についての検証も必要であることから10台分を補助とすることとしてよいか。

(「はい」の声あり。)

採択額は、LED投光器16台のうち6台分を減額し、補助金額は70万円とすることとしてよいか。

(「はい」の声あり。)

なお、補助額については、現段階ではLED投光器10台分を概算で70万円として採択するが、見積書徴収後に正式に決定することとする。

付帯意見は、効果的な配置等を試験的に実施している段階であることから、昨年度の購入分を併せて活用することとするとしてよいか。

(「はい」の声あり。)

以上で全7団体の審議が終了したので、採択の内容について確認する。

ウォーキングと郷土の自然・史跡探訪推進事業は、補助金額19万円とし、付帯意見は、クラブ会員に対する講師謝金は、事業経費対象外となるため、講師謝金分を減額する。

安塚区高齢者いきいき活動推進事業は、補助金額16万円とし、付帯意見はなし。

自主防災資材の整備事業は、補助金額59万円とし、付帯意見はなし。

横尾義智記念公園管理事業は、補助金額95万円とし、付帯意見はなし。

安塚jrアルペンスキークラブ育成事業は、補助金額58万円とし、付帯意見はなし。

健康・仲間づくりのスポーツサロン事業は、補助金額30万円とし、付帯意見はなし。

安塚リバーサイドロード魅力アップ事業は、補助金額70万円とし、付帯意見は、効果的な配置等を試験的に実施している段階であることから、昨年度の購入分をあわせて活用すること。なお、補助額については、現段階ではLED投光器10台分を概算で70万円として採択するが、見積書徴収後に正式に決定することとする。

安塚区の配分額である520万円に対して、採択額が347万円であるため、残額173万円分を追加募集することとする。

安塚区における平成29年度上越市地域活動支援事業の審議については以上である。

続いて、(2)平成29年度上越市地域活動支援事業(安塚区)追加募集について事務局に説明を求める。

【高島主事】

資料N o 2に沿って説明

(追加募集の日程について協議)

【數井憲一会長】

それでは、協議の結果、追加募集の日程を次のとおりとする。

- ・ 募集期間 6月5日(月)～23日(金)
- ・ 提案団体によるプレゼンテーション 7月3日(月)午後6時から
(第4回安塚区地域協議会)

なお、地域活動支援事業の全体審査(採択の可否、補助金の決定)については、提案件数確定後(6月23日以降)に決定する。提案件数が少なければ、第4回安塚区地域協議会(7月3日)で行い、件数が多ければ、7月10日に行うこととする。

続いて、(3)安塚区地域協議会としての審議内容について事前の提出があったか事務局に確認する。

【市川次長】

事前の提出はない。

【數井憲一会長】

この場でもよいが、委員の提案等を求める。

(「なし」の声あり)

安塚区地域協議会としての審議内容について以上とする。

続いて、4報告事項について何かあるか。

【山崎所長】

- ・ クマの出没状況について

【數井憲一会長】

そのほか意見はあるか。

(「なし」の声あり)

続いて、5その他であるが、次第では、次回開催が6月27日と予定されているが、次の第4回地域協議会は7月3日の開催となる。

- ・そのほか意見を求めるが、意見なし
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-592-2003 (内線 23)

E-mail : yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。